

美川地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年6月23日(火)19:00～
開催場所	美川コミュニティセンター
参加者	11名(市長、美川まちづくり協議会、みかわ未来プロジェクト、おかえり祭りを守る会、美川青年団、民生委員児童委員、美川地区防災士会、スピリッツカラーズ)
選択トピック	若い世代が見つける「地元の魅力」と伸ばし方 1. おかえり祭りと地域の魅力 2. 空き家活用と環境づくり 3. 若い世代の居場所づくり



2. 主な議題と意見

(1) おかえり祭りと地域の魅力



① 現状

- 美川地区は「仲がよくつながりが深い、団結力が強い」と市内の他地区からも評価されている
- おかえり祭りは美川地区の「幹」として、深い縦横のつながりを生むツールとなっており、各種団体の活動を支えている
- 美川青年団では初めて女性団長が誕生し、参加地域の拡大、女性や子どもの参画など、祭りの形態が変わってきている
- 今年、金城短大生のゼミの学生がおかえり祭りの運営協力で、台車引きや夕食準備、衣装直しなどを手伝った

② 課題

- 美川青年団の団員数が減少し、祭りの運営が困難になっている
- 祭りに魅力を感じている若者と感じていない若者の差が大きい
- 地域活動の役員が同じメンバーで固定化しており、新しい人材の参画が難しくなっている
- 伝統的な祭りの形を守りながら、時代に合わせて変えていく必要があるが、慣習を変えるには時間がかかる

③ 市の主な方向性・回答・対応

- ・ 少子高齢化を食い止めるのではなく、時代に合った対応が求められており、男女の区別なく適材適所で人材を活用し、対応していく判断をされたことは、「スマートシュリンク(賢く縮む)」の考え方にも通じるところがある
 - ・ 大学との連携を強化し、地域外の人材を活用して祭りを支援する
-

(2) 空き家活用と環境づくり



① 現状

- ・ 美川の魅力は、おかえり祭りを介して地元住民と密接に関わり、当事者として参加できる
- ・ 空き家をチャレンジショップやワークショップの場として活用し、美川に住みたいと思える環境づくりに取り組んでいる

② 課題

- ・ 社会人になると美川から出ていく若者が多く、都市部への流出がみられる
- ・ まちに関心がある人となない人の差が大きく、関心のない人はまちの良さを知らないため、美川に住む意義を感じていない
- ・ 美川駅はバリアフリー化が未整備で、高齢者や障害を持つ人が利用しにくい状況にある

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 子どもから高齢者、障害を持った方も含めて、みんながまちづくりに参加できる環境を整備する
-

(3) 若い世代の居場所づくり



① 現状

- 金城大学と連携し、若い世代の居場所づくりについてアンケート調査を実施
- 学校の授業で、どういうところで幸せを感じるかと問われた美川小児童が、人とのコミュニケーションと答えるなど、多世代交流の輪が広がっている

② 課題

- 若い世代が集える場所や、多様な人との触れ合いの場が限定的であり、交流の場が不足している
- まちに対して無関心になると、コミュニティが崩壊する可能性がある
- 中高生が勉強したり、地域の人々と交流したりできる場所がなく、若い世代の居場所が不足している

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 人が健康で生活するためには、人と交わり、幸せを感じられるような環境づくりが必要であり、市としても応援していく
- 大学との連携を強化し、人との触れ合いの場や若い世代の居場所づくりの取

3. まとめ

美川地区は、「歴史を紡ぎ、学びを育み、笑顔で長く住み続けられるまち」を目指す姿とし、おかえり祭りという地域の「幹」を守りながら、少子高齢化に対応するため、適材適所の人材活用や大学との連携に取り組む地区です。

今回のミライ会議では、美川地区の若い世代が地元の魅力をどのように見つけ、伸ばしていくかについて、若者自身が活発に発言し、具体的な話をしました。

市としては、伝統ある地域行事の継承には若い世代の力が必要であるため、まちへの関心と愛着を高めてもらい、住みよいまちとなるよう、市と地域が一体となって課題解決に向けて取り組むことを確認しました。

